

お笑い芸人・小島よしおさん 雑誌取材、大館の児童と きりたんぽ作り挑戦



お笑い芸人の小島よしおさん(44)が6日、大館市の矢立小学校を訪れ、きりたんぽ鍋を作って児童と交流した。自身が連載ページをもつ子ども向けの食農教育雑誌「ちゃぐりん」の取材の一環。

小島さんと4～6年の12人が参加。JAあきた

北の女性部員らを講師に迎え、大館市産の新米あきたこまちを使用。コメをすり鉢でつぶす際は「五分づきの『半殺し』状態にする」と講師から説明を受けた小島さんが、「半分は生きているということですね」とユニークに切り返し、笑いを誘っていた。

秋田杉の棒に巻き付けて形を整えた後に焼き上げ、野菜や地鶏スープと煮込んで完成。児童と一緒に味わった。

きりたんぽ作りは初めてだったという小島さんは「お米の温度感が伝わってきたし、何より思っていたより難しかった。純粋で正直な子どもたちで、一緒に過ごして心が洗われた」と笑顔だった。6年の花岡佑季さんは「テレビで見えていた通り面白い人で、一緒にきりたんぽを作れていい経験になった」と話した。

ちゃぐりんは1964年創刊で、JAグループの出版文化団体「家の光協会」(東京都)が月1回発行。小島さんは2018年から自身の連載「小島よしおの産地へGO! GO!」を手がけており、全国各地を訪れて郷土料理や農産物を取材している。

今回の取材模様は来年の9月号(26年8月発売)に掲載予定で、JAあきた北が大館市教育委員会を通じて市内の全小学校に配布する。(間杉大旗)

(令和7年10月8日(水)秋田魁新聞より一部抜粋)